

担い手通信

JAバンクは地域の担い手を応援します

今月の話題

病害虫判別アプリ

日本に試験導入

BASF 年内、大豆から

ドイツに本社を置く総合化学メーカーのBASFは1月24日、欧州を中心に展開している農作物の病害虫を判別するアプリ「Xarvio（ザルビオ）」を、2019年中に日本で試験導入を始めること発表しました。病害の疑いがある作物や害虫の写真を撮ると種類を特定し、適した農薬を示します。対象作物は、大豆を皮切りとし、徐々に他の品目にも広がっていきます。

東京都港区で開いた、スマート農業に関するパネル



デジタル農業の重要性を話す
BASFのマルクス氏
(1月24日、東京都港区で)

デイスカッションの中で発表しました。試験導入するのは「Xarvioスカウティング」と「Xarvioフィールドマネージャー」の2種類です。

「スカウティング」はスマートフォン向けのアプリ。写真を基に、作物に病害が出ていないかや、雑草や害虫の種類を判別してくれます。近隣のアプリ利用者

のデータを蓄積して、病害の発生予測もできます。

「フィールドマネージャー」は、より広範囲の病害発生状況の確認に使えるアプリで、衛星画像から、病害の発生箇所や防除適期を判断し、必要な農薬量も示してくれます。

同社は、データを基にしたデジタル農業に力を入れ、世界展開を目指しています。アグロソリューション事業部を統括するマルクス・ヘルド氏は「デジタル農業は、欧州や北米、南米の大規模農家で普及してきた。世界の食料生産を高めるため、日本などアジアの小規模農家にも普及さ

せていく」と話しました。

同社は今後、日本の農家と協力して試験を進め、国内でのアプリの有効性や課題を整理。アプリ展開の方向性を探っていきます。

今が旬 この言葉

改正農薬 取締法

2018年12月に改正農薬取締法が施行されました。①農薬の再評価制度の創設②農薬登録の審査の見直し―が大きな変更点です。①は15年ごとに最新の科学基準で安全性を確認する仕組みで、国際的な基準に合わせる形で新たに導入しました。②にはジェネリック(特許切れ)農薬の申請の簡素化が含まれています。良質な農薬を安価に流通させるのが狙いです。

同改正法により、農作業の安全性の向上や生産コストの引き下げ、農産物の輸出促進へ期待が高まります。

このコーナーは、三重県農業研究所の「研究成果情報」に基づき制作し、県内に広く研究成果を紹介しています。

骨の健康維持につながる、茶粉末の製造方法を確立

茶葉成分のビタミンK、エピガロカテキンゲレートに着目

高齢化社会が進むなか、骨粗しょう症の予防に関心が集まっていますが、骨の健康維持には毎日の食生活にヒントがあるかもしれません。

三重県農業研究所では「茶」に多く含まれる成分に注目。骨の健康維持に有効とされるビタミンKとエピガロカテキンゲレート(EGCG)をさらに多く含む茶の栽培・製造方法を確立しました。この茶粉末を用いたマウス実験(三重大学生物資源学研究所)では、餌に0.0

3%添加すると骨密度の低下を抑制できることが分かっています。

両成分を多く含む茶葉のキーワードは「二番茶」の「2段階被覆」「白茎の除去」です。茶期別では、二番茶が一番茶・秋番茶よりも両成分ともに多く含まれています。三重県では茶の品質を高めるために収穫期前に被覆する「かぶせ茶」の栽培が盛んです。栽培時に2段階の被覆を行うことでビタミンKの濃度がより高まります。また両成分は、茎より

葉に多く含まれることから、色彩選別によって白茎を除去することで含有量をさらに高めることができます。

ビタミンKは水に溶けないため、茶粉末として摂取することで茶葉中のビタミンKを有効利用できます。粉末茶の製造を想定し、粒度別のビタミンK消化吸収率を調べたところ、茶粉末の粒度が細かいほど吸収率が高まりました。とくに、1000マイクロメートル(μm)以下の粒度では生野菜の3倍の消化

(日本農業新聞より)

■JA多気郡 「青島温州」 出荷始まる

三重県内でミカン「青島温州」生産量最大を誇るJA多気郡で2月上旬から「青島温州」の出荷が始まっている。2018年度産は生産量約30トンを見込んでおり、3月上旬まで地元市場に出荷する。「青島温州」は12月中旬に農家が収穫。貯蔵庫で1、2カ月貯蔵で減酸する。大玉で平べったく、味の濃さと甘味が強いのが特徴だ。生産者は「収穫量は少ないが、糖酸バランスが良いミカンに仕上がった」と話す。

(2019/2/21 ワイド1東海)

■JA鳥羽志摩 農機修理 初期対応が大切 顧客満足度アップへ

JA鳥羽志摩は2月上旬、「あぐり」店職員と経済職員を対象とした農機具安全使用講習会を農機センターで開いた。あぐり店への修理依頼時にただ預かるだけでなく、不調診断と適切な初期対応をし、顧客満足度の向上とセンターでの作業効率の向上を目指す。同センターでは、農機具に対する正しい知識を身に付け、安全に使うための講習会を農繁期前に行ってきた。知識と対応力の向上を図るため、従来の座学ではなく、実機を操作する体験型の講習会とした。3日間実施し、延べ12人の職員が参加。講師は農機センター職員や農機具メーカー担当者らが務めた。

(2019/2/21 ワイド2東海)

■JA三重南紀 JA三重南紀、子会社オレンジアグリが全農栽培システム「ういずone」導入

JA三重南紀とJA子会社のオレンジアグリは、未使用中の水稻育苗施設を有効利用するため、栽培システム「ういずone」を今年度導入し、試験的に野菜の栽培を開始した。県内では、JA鈴鹿に続き2番目の導入となる。「ういずone」は、発泡スチロール箱を使い、養液で栽培するトロ箱養液栽培システム。キュウリとミニトマトを試験的に栽培し、出荷している。同システムは、育苗ハウス未使用期間や遊休ハウスの有効利用を検討している生産者向けに、JA全農が開発した。

(2019/2/16 県版三重)

ビタミンK・EGCG含有量の 高い茶葉の製造方法

- ①茶期：二番茶期
- ②被覆：二段階被覆
85%遮光6日間の後、
98%遮光9日間
- ③色彩選別：白茎を除去

吸収率が期待できることが分かりました。

これらの成果により、県内産茶の新たな需要の創出ならびに、骨の健康維持に向けて期待が高まります。

※お茶栽培用85%遮光資材で6日間被覆した後、資材を2枚重ねにして遮光率98%で9日間被覆する方法

お問い合わせ先 三重県農業研究所 フード・循環研究課 ☎ 0598-42-6361
茶葉研究課 ☎ 0595-82-3125

明日の農業を担うみなさまへ
JAバンクは地域農業を応援します！

◆トラクターなどの
農業用機械の購入資金
◆栽培用ハウス・畜舎など
農業用施設の建設資金
◆その他農業経営に必要な資金

農業経営資金

対象期間／平成30年4月2日～平成31年3月29日

農業者の皆様のご負担金利を**5年間軽減**いたします。

JAバンク利子補給制度(3年間)と
当JA金利引き下げ(2年間)措置の対象となります。
利子補給および金利引き下げの適用イメージ～変動金利型の場合～

(お借入金利) 変動金利 年1%	-	(JAバンク利子補給・金利引き下げ) 年0.8%	=	実質 年 0.2%
---------------------	---	-----------------------------	---	------------------

5年間

詳しくは、お近くのJAバンク窓口までお問い合わせください。<http://www.jamie.or.jp/jabanking/agri/>
平成31年2月現在

※JAバンク利子補給・当JA金利引き下げ後のご負担金利は0.2%を下回らないように調整されます。
※イメージは実際とは異なる場合がございます。詳しくはお近くのJAバンクまでお問い合わせください。
※JAバンク保証料助成により、実質保証料が0円となります。

0円

実質保証料